

令和8年度 県立霞ヶ浦聾学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆安全・安心な環境のもと、楽しく元気に学べる学校 ◆一人一人の学びを大切に、豊かなコミュニケーションと日本語の力を育み、生きる力を育てる学校 ◆幼児児童生徒、教職員みんなが自信と誇りをもてる学校 ◆保護者、社会、関係者と共に歩む開かれた学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>○阿見町と連携した防災教室を実施し、保護者も参加し障害種に特化した災害時の避難について情報を共有できた。</p> <p>○学校アンケートの実施やオンライン相談窓口の活用により、問題を早めに捉え、学校全体でいじめの未然防止ができた。</p> <p>●不審者対策の強化のためモニターの設置や避難訓練時の聴覚障害の職員に対する伝達訓練を行う。</p>	<p>1 安全・安心な学校づくりと健康で豊かな心の育成</p>	<p>①安全・安心な教育環境の整備 ②自ら健康・安全に生活する力の向上 ③信頼し絆を深める人間関係づくりの推進 ④教職員コンプライアンス意識の向上と働き方改革の推進</p>	
<p>○学校アンケートの実施やオンライン相談窓口の活用により、問題を早めに捉え、学校全体でいじめの未然防止ができた。</p> <p>●不審者対策の強化のためモニターの設置や避難訓練時の聴覚障害の職員に対する伝達訓練を行う。</p> <p>○教員相互に授業参観を行い、自分の授業について見直す機会となった。各部の研修を深め、言語力、思考力の実態に基づく授業改善を行うことができた。</p>	<p>2 聴覚活用とコミュニケーション力の伸長による確かな日本語力の育成</p>	<p>①多様な手段を活用したコミュニケーションの推進 ②日本語による「読み」「書き」能力の向上 ③情報を正しく理解し、適切に表現する力の育成</p>	
<p>○外部専門家を計画的に活用し、聴覚活用や言葉の発達における指導を行うことができた。</p> <p>●校内支援や手話推進の係を中心としたOJTでの職員の聾教育スキルの向上を目指す。</p> <p>●聴覚障害教育と教科指導に関する研修を行い、学びの充実を目指す。</p>	<p>3 基礎・基本の定着と学びの充実を目指す授業づくり</p>	<p>①専門家と連携した「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善 ②教科学習を支える言語力、思考力の育成 ③個別最適な学びのための効果的なICT活用の推進</p>	
<p>●個々のコミュニケーション力を伸ばすため自立活動の指導力向上を目指す。</p> <p>○コミュニティスクールを通じた地域との連携を図り、本校の情報発信や幼児児童生徒の経験の幅を広げることができた。</p> <p>●相談支援センターからの積極的な外部への発信、相談しやすい環境づくりを行い、センターの役割を強化する。</p>	<p>4 センターの機能の充実と地域との連携</p>	<p>①コミュニティスクールや地域と連携した学びの充実 ②相談支援センターの役割強化と早期教育相談、通級指導教室の充実 ③幼児教育施設、小・中学校等に在籍する聴覚障害児や担当教員への支援</p>	
<p>●相談支援センターからの積極的な外部への発信、相談しやすい環境づくりを行い、センターの役割を強化する。</p> <p>●中学部の学校間交流の推進を行うことで体験的な活動を増やし、豊かな心を育てる。</p>	<p>5 自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実</p>	<p>①発達段階に応じた基本的生活習慣の確立 ②各部の系統性を踏まえたキャリア教育の推進 ③交流及び共同学習の推進</p>	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営管理教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒、保護者、地域等から信頼される安全・安心な学校づくり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒の実態を十分に配慮した細かな視点を取り入れた安全点検を実施し、対応する。更衣室の定期的な点検、巡回を行う。 ・防災、捜索、アレルギーなどに対応した訓練を行い、職員全員が緊急時に基本的な対応ができるようにする。聴覚障害のある職員への伝達訓練を行う。 ・外部関係者との連携による校内巡視、様々な災害を想定した危機対応マニュアルを見直し、シミュレーションを行う。 ・いじめや自殺防止のための学校生活に関するアンケートの実施やオンライン相談窓口を活用し、幼児児童生徒の安全な学校づくりに努める。 ・安全・安心な通学指導を推進する。 ・行事や授業公開時の防犯計画を立て、不審者の侵入を防ぐ。 ・薬物乱用防止教育、がん教育、自殺予防教育などのちを守る教育について外部講師を招いて実施する。 	1-①②③		
教職員の育成及び指導・監督	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒一人一人に応じたコミュニケーション力の伸長。 ・基礎基本の定着と学びの充実を目指した授業づくりの推進。 ・自立と社会参加に向けたキャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒の学びの姿を想定した授業改善、システムづくりに取り組む。 ・各部の研究成果を、実践検証しながら授業改善のシステムに組み込む。授業参観を実施し、意見交換をすると共に聴覚障害以外の障害を有する幼児児童生徒の実態把握に基づく指導支援を検討、実践する。 ・「教科学習を支える言語力・思考力の育成」をテーマとした各部の研修を推進し、相互に授業を参観する時間を設定し、授業改善に取り組む。 ・自立活動における聴覚保障を整備し、一人一人のコミュニケーション力を伸ばす。 ・外部専門家を活用し、聴覚活用とことばの発達についての理解を深める。 ・キャリア教育をとおして、人間関係形成能力や情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力など自立と社会参加に向けた力を育成する。 ・授業に関するアンケートで児童生徒による評価を行い、授業改善に取り組む。 ・校内支援係、手話推進係が年次研対象者に対してOJTでの聴覚障害教育スキルの向上を目指す。 	2-①②③ 3-①②③ 5-①②③		
対外活動	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域、関係機関等と連携し、地域とともにある社会に開かれた学校づくりの推進。 ・地域のセンター的役割の強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールを通じて地域との連携を図り、ゲストティーチャーを活用することで、幼児児童生徒の豊かな学びを推進する。 ・特別支援教育推進体制充実事業において、聴覚障害教育や特別支援教育の理解推進を図る。 ・相談支援センターを中心としたインスタグラムでの発信を行い、相談しやすい環境づくりの整備と聴覚障害教育に関する情報を発信することで、地域のセンター的役割を強化する。 ・交流及び共同学習を推進し、幅広い体験をとおして、豊かな人間性を育む。 	4-①②③ 5-③		

コンプライアンス確保	<ul style="list-style-type: none"> ・風通しのよい職場づくり、教職員の日々の服務規律の遵守とコンプライアンス意識の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・服務遵守に関する情報発信、研修を繰り返し実施し、教職員一人一人の服務規律確保、コンプライアンス意識の向上を図る。 ・互いの意見や立場を尊重した、「ハラスメント0」の職場環境づくり。コンプライアンス研修を推進し、教職員一人ひとりが日々、コンプライアンスを意識できるようにする。 ・児童生徒、職員同士、保護者に対する人権意識の向上を目指す。 	1-①②③④		
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間の働き方（業務内容）を見直し、時間外在校時間月45時間以内、年間360時間以内とする。 ・授業づくりの時間を確保するとともに効率化を図る。 ・ICTを活用した業務改善。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務内容や要する時間のデータを基に意見交換を行い、本校の働き方の課題を明確にする。 ・授業準備や評価の具体的な方法や教材について情報交換し、共有することで授業づくりの効率化を図る。 ・チャットを活用し、打ち合わせの簡略化を行う。 ・AIを活用した会議記録の作成など全体に広げていく。 ・早出勤務やテレワーク体験を行う。 	1-④		
ICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒の言語獲得、活用、コミュニケーション力を伸長する、個別最適な学びのためのICT活用を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒の学習や生活課題に即したICT活用を推進する。 ・児童生徒の言語に関する実態を十分把握する。ICT活用の課題に基づき、言語の意味を正しく理解し、活用できるため指導支援を共有、実践する。 ・外部講師を招き、情報セキュリティ教育を推進する。 ・ICTに関する授業評価を幼児児童生徒が行い、理解度を確認する。 	3-③		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない